

～ 「何が非行なのか？」 ～

■ 準備

- ・ ワークシート「何が非行なのか？」
- ・ フラッシュカード①「非行少年の分類」
- ・ フラッシュカード②「非行後の長いドラマ」
- ・ 振り返り用紙

■ ねらい

- ・ どのような行為が非行となり、処分の対象となるのかを各自が考え、さらにグループで意見交換することによって、非行に関する知識を身に付ける。
- ・ 「道徳的に悪いこと」と「法的に悪いこと」が必ずしも一致しないことや、善悪の基準が人によって違うことなどを理解する。
- ・ 他の人と意見を交わすことで自己理解・他者理解を深め、感受性の促進を行う。

■ 実施できる時間

- ・ 地理歴史科・公民科の授業（内容的には公民科で扱うのがよい）
- ・ LT（1年生の1学期、とくに夏休み前などに行うのがよい）

■ 展開例

1 導入

- ① これから非行を考える活動をすることを伝え、その目的を説明する。
- ② フラッシュカード①「非行少年の分類」を示しつつ、少年法の規定に基づいた「非行」の定義を説明する。その後、フラッシュカード②「非行後の長いドラマ」を示しながら、非行を犯してしまった場合には、どのように処遇されるかを説明する。

2 展開

- ① ワークシートに記されている10個の行動例を、各自で「悪くないこと」「悪いこと」「悪いことの中でも非行（犯罪）になること」の三つに分類し、それぞれの場所に記入する。（3分間）
- ② 四人のグループを作り、グループでの話し合いによって、あらためて10個の行動例を三つに分類する。（15分間）
- ③ 話し合って分類した結果を、各グループがそれぞれ発表する。
- ④ 正しいと思われる一応の分類と、特に法律に照らしてみても「悪いことの中でも非行（犯罪）になること」を発表する。

3 まとめ

- ① 各グループの発表した内容を比較しながらまとめる。その際、善悪の基準は人によって多少異なっているため話し合って分類するのは意外と難しいことを挙げ、価値観の違いを考えさせるとともに、他者理解を促す。また、甘い認識で行ったことが、「重大な結果＝非行（犯罪）による処罰」となってしまう可能性があることを指摘し、意識させる。
- ② 各自で「振り返り用紙」を記入した後、グループで今日の活動の感想を述べ合う。

## ワークシート「何が非行なのか？」

◎次にあげる行動例を，A＝「悪くないこと」，B＝「悪いこと」，C＝「悪いことの中でも非行（犯罪）になること」に分類してみましょう。

### 【行動例】

- |                                    |            |
|------------------------------------|------------|
| ① みんなが並んで待っている列に，こっそりと割り込む。        | (        ) |
| ② 相手がムカツクことを言ったので殴る。               | (        ) |
| ③ 電車の中で，お年寄りが目の前に立ったのに席を譲らない。      | (        ) |
| ④ 高熱があったので，大切なテストを休む。              | (        ) |
| ⑤ 駅前に何日も放ってあった他人の自転車を，勝手に乗って帰る。    | (        ) |
| ⑥ 友達の万引きがうまくいくように見張りをする。           | (        ) |
| ⑦ 困っている人がいたのに，急いでいたので無視した。         | (        ) |
| ⑧ スポーツの試合で，誤って相手にぶつかってしまい，怪我を負わせる。 | (        ) |
| ⑨ 用もないのにナイフを持ち歩く。                  | (        ) |
| ⑩ 青信号で横断していたら，急に車が曲がってきて，ひかれそうになる。 | (        ) |

**悪くないこと**

**悪いこと**

**犯罪（非行）になること**

## 振り返り用紙（「何が非行なのか？」）

年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

- 1 これまでこのような非行に関する授業を受けたことがありますか。

ある ない

- 2 今日の授業を通して、非行についての知識を得ることができましたか。

1	2	3	4
---	---	---	---

得ることができなかった

得ることができた

- 3 グループの話し合いでは意見を出すことができましたか。

1	2	3	4
---	---	---	---

意見を出せなかった

意見を出せた

- 4 グループの話し合いでは他の人の意見を聞くことができましたか。

1	2	3	4
---	---	---	---

意見を聞けなかった

意見を聞いた

- 5 グループでの活動に参加することができましたか。

1	2	3	4
---	---	---	---

参加できなかった

参加できた

- 6 グループでの活動では、あなたがたのグループはまとまっていたか。

1	2	3	4
---	---	---	---

まとまっていなかった

まとまっていた

- 7 この授業はあなたのためになりましたか。

1	2	3	4
---	---	---	---

ためにならなかった

ためになった

- 8 この授業は楽しかったですか。

1	2	3	4
---	---	---	---

楽しなかった

楽しかった

- 9 この授業の感想を書いてください。

---

---

---

～ 「損得勘定をしてみよう」 ～

■ 準備

- ・ ワークシート「損得勘定をしてみよう」
- ・ 参考資料「A君・B君のその後（例）」
- ・ 振り返り用紙

■ ねらい

- ・ 「非行をする」という行動の損得を考えることで、その行動の結果としてもたらされるリスクを回避する判断力を養う。
- ・ 意見交換を通して、他者理解を促しつつ、お互いにより行動を選択できるようにする。
- ・ 非行をすることによって得をすることが一時的であるのに対し、損することが継続的であることや、トータルでみて損の方がずっと多いことを知る。

■ 実施できる時間

- ・ 地理歴史科・公民科の授業（内容的には公民科で扱うのがよい）
- ・ LT（1年生の1学期、特に夏休み前などに行うのがよい）

■ 展開例

1 導入

教師はエクササイズの目的を説明する。

「今日は、悪いことをすると得することの方が多いか、損することの方が多いか、みんなで考えてみたいと思います。」

2 展開

- ① ワークシートを配布し、非行をした場面（ここでは、万引きの見張りを手伝った場面）を読み上げる。
- ② 損得を考える。生徒は各自で、非行を手伝ったA君が「得したこと」と「損したこと」を思いつくだけワークシートに記入する。

例	得したこと	・ B君との友情(?)が保てた。 ・ たただで物を手に入れることができた。	・ 万引きを手伝うスリルを味わえた。
	損したこと	・ 後でビクビクしなければならない。 ・ 見つかったら、学校で特別指導になる。	・ 警察に捕まる可能性がある。 ・ 見つかったら、親が悲しむ

- ③ 生徒は四人一組のグループを作り、話し合う。それぞれのグループで、各自が思い付いた「得したこと」「損したこと」を出し合い、意見を交換し、まとめてみる。
  - ④ 各グループで話し合っまとまった「得したこと」「損したこと」を発表する。
- 3 まとめ

- ① グループの発表を受ける形でまとめる。その際、非行をすることで得られる「得」が一時的であるのに対し、「損」することのほうが継続的であり、その後の人生に影響（ダメージ）を与える可能性があるということを示す。さらに、参考資料「A君・B君のその後（例）」を配布し、より具体的に非行のデメリットを意識させる。
- ② 各自で「振り返り用紙」を記入した後、グループで今日の活動の感想を述べ合う。

## ワークシート「損得勘定をしてみよう」

### 【場面設定】

A君は、友達のB君から「欲しい物があるから盗る（万引きする）のを手伝って」と頼まれ、どうしようか迷いましたが、「頼むよ！友達だろ！」と言われ、断りきれず、B君が万引きをしている間、見張りをすることになりました。万引きが終わった後、A君はB君から「お礼に」と盗んだ物の一部をもらいました。

☆ 上記の場面で、「A君が得したこと」「A君が損したこと」を考え、思い付くだけ挙げてみましょう。

《A君が得したこと》

《A君が損したこと》

## 振り返り用紙（「損得勘定をしてみよう」）

科 年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

- 1 今日の授業を通して、非行における「損得」を考えることができましたか。

できなかった 1                      2                      3                      4 できた

--	--	--	--

- 2 今日の授業を通して、非行の損（デメリット）を学べましたか。

学べなかった 1                      2                      3                      4 学べた

--	--	--	--

- 3 グループでの活動に参加することができましたか。

できなかった 1                      2                      3                      4 できた

--	--	--	--

- 4 この授業はあなたのためになりましたか。

ためにならなかった 1                      2                      3                      4 ためになった

--	--	--	--

- 5 この授業は楽しかったですか。

楽しくなかった 1                      2                      3                      4 楽しかった

--	--	--	--

- 6 この授業の感想を書いてください。

---

---

---

---

～ 「断る勇氣」 ～

■ 準備

- ・ ワークシート「断る勇氣」
- ・ 振り返り用紙

■ ねらい

- ・ 非行に誘われた場面を想定し、断り方を検討し練習することで自己主張的な行動（断り方）を習得する。
- ・ 悪い誘いであれば、相手の気持ちを考えることは必ずしも必要ではなく、相手につけこまれないように、きっぱりと断ることの重要性を知る。

■ 実施できる時間

- ・ 地理歴史科・公民科の授業（内容的には公民科で扱うのがよい）
- ・ LT（1年生の1学期、とくに夏休み前などに行うのがよい）

■ 展開例

1 導入

エクササイズの目的を説明する。

2 展開

- ① ワークシートを配布し、教師が場面設定「万引きの見張りを頼まれる場面」を読み上げる。
- ② 七つの答え方を感情を込めながら読み上げる。
- ③ 答え方を分類してみる。各自で七つの答え方を、よい（自己主張的）答え方と悪い（自己主張的ではない）答え方とに分類し、ワークシートに記入する。
- ④ 四人一組のグループを作り、話し合う。それぞれのグループで、最もよい（自己主張的）答え方を決め、その理由も含めて考えてみる。
- ⑤ 話し合った結果を発表する。各グループの発表のポイントは板書する。
- ⑥ 答え方についてグループの発表を受ける形でまとめ、自己主張的な答え方のポイントを解説する。また、自分が非行に巻き込まれそうになった場合は、その後どうなるかを考え、友達関係を絶つくらい断固とした行動をとることもやむを得ないこともあることを述べ、生徒にきっぱりと断ることの大切さを伝える。
- ⑦ 各自で“きっぱり断る言葉”を考え、グループ内で披露し合う。

3 まとめ

- ・ 「誘われたからといって悪いことをしてしまえば、その責任は自分にはね返ってきます。『本当はやりたくなかったただけど』という言い訳は通用しません。後で後悔しないためにも、悪い誘いはきっぱり断れるようにしましょう。」
- ・ 「自ら進んで悪いことをしないことは当然です。でも、自分はする気はないのに悪いことに誘われてしまうこともあるかもしれません。そのときには『自分は嫌だ!』『やりたくない!』という気持ちを“はっきり”“きっぱり”と伝えることが必要です。そうした《正しい自己主張》が必要なのです。これはさまざまな“よくない勧誘”を受けたときにも同様です。そうした自分自身を守る『断る勇氣』が必要なのです。」
- ・ 各自で「振り返り用紙」を記入した後、グループで今日の活動の感想を述べ合う。

参考文献 國分康孝監修 押切久遠著『非行予防エクササイズ』（図書文化社）

## ワークシート「断る勇氣」

### 【場面設定】

あなたは、いつも遊んでいる友達と本屋に行きました。本屋に着くと、その友達はあなたに「この本屋ってガードが甘いから結構簡単に盗れるらしい。ちょうど欲しいマンガがあって、金出すのも惜しいから、(盗みを)やってみよう。俺が盗るから、お前はそこで見張ってくれ。」と万引きの見張りをもちかけられました。

### 【質問】

☆次にいろいろな答え方をあげました。「よい答え方」と「悪い答え方」に分類してみましょう。

- A「俺も欲しいのがあったんだ。ついでに頼む。見張っているから！」と積極的に見張りをする。
- B「(気が進まないけど…)君がそういうなら仕方ないか…」としぶしぶ協力する。
- C「やってもいいけど、もし見つかったら、俺が見張りしていたこと言わないでよ。」と自分には被害が及ばないようにして協力する。
- D「そんなこと考える人とは思わなかった(怒)！やりたければ一人でやればいけないか(怒)！」と言って怒って別れる。
- E「そりゃいけないよ。やめようよ。マンガはちゃんと買うか、我慢するか、それとも誰かに借りようよ。」と止める。
- F「俺もあのマンガ欲しいけど、マンガのために捕まりたくない。やめとこうよ。」と止める。
- G「“弱い”と思われるかもしれないけど、そうゆうのは絶対やらないと親と約束しているから…」と断る。

よい答え方	悪い答え方

☆ きちんと断らないと「こいつは断れない人間だ」と思われて、無理に押し付けられてしまい、不本意ながら悪いことに巻き込まれてしまうことがあります。断るべきときはきちんと断ることが大切です。下の欄に、上記の【場面設定】のような状況での、自分なりの“きっぱり断る言葉”を考えて書いてみましょう。

--



## 振り返り用紙（「断る勇氣」）

科 年 組 番 氏名 \_\_\_\_\_

- 1 今日の授業を通して、「断る勇氣」の必要性を学べましたか。

学べなかった 1                      2                      3                      4 学べた

--	--	--	--

- 2 今日の授業を通して、非行に誘われたときの断り方（自己主張的な対応）を学べましたか。

学べなかった 1                      2                      3                      4 学べた

--	--	--	--

- 3 グループでの活動に参加することができましたか。

できなかった 1                      2                      3                      4 できた

--	--	--	--

- 4 あなたの考えた“きっぱり断る言葉”はどのようなものでしたか。もう一度記入してください。

--

- 5 グループで行ったロールプレイで、それぞれの役をやって感じたことを書いてください。

頼む役	
断る役	
見張る役	

- 6 この授業はあなたのためになりましたか。

ためにならなかった 1                      2                      3                      4 ためになった

--	--	--	--

- 7 この授業は楽しかったですか。

楽しくなかった 1                      2                      3                      4 楽しかった

--	--	--	--

- 8 この授業の感想を書いてください。
